

授 業 科 目 名	歯科診療補助法Ⅲ	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 24年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 24年
	野村 渚	歯科衛生士歴 6年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 46年
開 講 時 期	3年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

授業目標

1年次で習得した歯科診療補助の基本的な知識・技能・態度をもとにより実践的な知識・技能・態度を修得し臨床に向けて理解を向上させる

【授業の進め方】

講義、実習

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版
 最新歯科衛生士教本 歯科材料
 最新歯科衛生士教本 歯科器械
 最新歯科衛生士教本 保存修復学・歯内療法学
 最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔学
 最新歯科衛生士教本 歯周病学

【評価方法】

- 1、実技試験
 - 2、課題レポート
 - 3、定期試験
- 1～3の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

予習復習は常に行うようにする
 レポートの提出日は必ず守ること
 実技に関しては常に訓練を怠らないこと

授 業 科 目 名	歯科保健指導法Ⅲ	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 24年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 24年
	野村 渚	歯科衛生士歴 6年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 46年
開 講 時 期	3年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 30時間(15回)

【授業の目的・到達目標】

授業目標

1年生で学習した基礎(全教科)の知識を、歯科保健行動に変容させるためにはどのように活用させるかを理解する。
 対象者別、疾病別の指導法を理解し、的確に助言・援助できるよう学習する。
 個人・小集団指導に対する伝達技術・媒体の作成法を習得し、対象別に立案・作成し発表、指導できることを目標とする。

【授業の進め方】

講義、演習、実習

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
 最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版
 最新歯科衛生士教本 保健情報統計学
 最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度

その他プリント

【評価方法】

- ・授業態度
- ・課題レポート
- ・定期試験

以上を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習復習は常に行うようにする
 - ・レポートの提出日は必ず守ること
- 保健指導は対象者によって指導の内容が違うので、数学のように画一的な答えは出ないし、すべての科目の内容を把握しないと、適切な指導はできません。
 全教科の集大成が歯科保健指導と考えて学習すること。

授 業 科 目 名	歯科予防処置法Ⅲ	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 24年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 24年
	野村 渚	歯科衛生士歴 6年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 46年
開 講 時 期	3年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

予防処置

目的：歯を支える歯周組織の病気である歯周疾患（歯周病）と歯科衛生士の役割、また、歯周治療の基本の技術・知識を身につける。

齲蝕予防処置

目的：歯科衛生士として、集団を対象とした齲蝕予防処置を行うために必要な知識を身につける。
また、共同動作（グループワーク）を行うことにより、チーム内の連携の重要性・自分で考える力を身につける。

【授業の進め方】

- ・講義
- ・演習
- ・実習

【使用教本・教材】

教本：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版
最新歯科衛生士教本 歯周病学 他

【評価方法】

- ・定期試験
 - ・技術試験
 - ・小テスト
 - ・レポート課題
 - ・授業・実習態度
- } 総合した点数による絶対的評価とする

【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・課題においては、提出期限を厳守とする
- ・齲蝕予防を行う、公衆衛生活動の場に積極的に参加する
- ・コミュニケーション能力を身につける努力を心掛ける

授 業 科 目 名	栄養指導Ⅱ	実務経験
担 当 教 員 名	奥嶋 寿美子	管理栄養士歴 32年
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

栄養の基礎知識を基に健康の保持・増進・疾病の果たす栄養の役わりを
歯科衛生士として十分に理解すること。

1. 食事摂取基準を理解する。
2. 食生活における現在と過去の違いを理解する。
3. 現在の食生活の問題点と望ましい食生活を理解する。
4. ライフステージ別の栄養と調理を理解する。
5. 各年代・有病者の食生活の考え方を理解する。

【授業の進め方】

適時資料配布

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝(医歯薬出版)
食品成分表(医歯薬出版)

【評価方法】

- | | | |
|---|---|--------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験 2. 小テスト 3. 学習態度 | } | 総合した点数による絶対的評価とする。 |
|---|---|--------------------|

【授業心得】

専門用語について教科書で確認し予習と復習で内容を整理し理解に努めてください。

授 業 科 目 名	英語Ⅱ		
担 当 教 員 名	山本 栄治	歯科医師歴 19年	
開 講 時 期	3年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

日本と外国の歯科事情や保健システムの違いを理解したうえで、歯科医院での外国人とのコミュニケーションのとり方を学習する。
問診のとり方、歯周病やう蝕に関する専門用語を習得する。

【授業の進め方】

発展途上国で診療した時の実際のスライド・ビデオを見ながら授業
専門用語のプリントと板書で授業を進める

【使用教本・教材】

プリント、スライド、ビデオ
参考書として 医歯薬出版 英語

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

外国人の患者が来院しても、あわてることが内容しっかり学習し、理解してほしい。

授 業 科 目 名	衛生行政・社会福祉	実務経験
担 当 教 員 名	吉村 寿人	社会福祉歴 17年
開 講 時 期	3 年生	前 期
授業形態・単位数・時間	講義・演習	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・目標】

高齢化社会の進行にともない保健医療と福祉の連携の必要性が強調されている中で、保健医療に携わる専門家として健康で文化的生活を営むための社会的支援について理解し、我が国の保健・医療・福祉の動向や社会保障制度、社会福祉の概要を理解しておくことは重要である。

本講義では、社会保障と社会福祉の基本理念を学ぶとともに、現行制度の種類と内容及び今後の課題について学習する。

本講義の到達目標は、次の3点である。

- ①我が国の社会保障制度について理解できる。
- ②我が国の社会福祉制度について理解できる。
- ③保健医療に携わる専門職として、多職種連携について意識できるようになる。

【授業の進め方】

主に講義を中心として進める。授業の内容によっては、グループワークを行う場合もある。

講義終了後は、ミニット・ペーパーに疑問点や質問事項などを記入してください。次の授業に活かしていきます。

【使用教本・教材】

『社会保障入門2020』 社会保障入門編集委員会編集、中央法規出版、2020年1月
その他、適宜プリントを配付します。

【評価方法】

提出物(20%)、出席状況・受講態度(20%)、期末試験(60%)
その他、小樽歯科衛生士専門学校の学則等に準じます。

【授業心得】

- 1、授業中の私語、携帯電話の使用(メール)、本教科と無関係の読書、無断での途中退室は認めません。
- 2、資料配布については、1度しか配布しません。無くした場合は友達からコピーさせてもらってください。
- 3、提出物については期限を守ってください。
- 4、授業への参加、積極的な発言を期待します。
- 5、その他、小樽歯科衛生士専門学校の学則等に準じます。

授 業 科 目 名	看護学総論	実務経験
担 当 教 員 名	殿川 聖一	看護師歴32年、教員歴15年、保健師歴12年
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科衛生士職は、看護師と同じように様々な患者のライフステージに関わる。時代の要請に応じるため歯科衛生士業務の多様化に伴う多職種との協働の機会は今後も予測される。その多職種の一つであり、歯科衛生士の誕生にもかかわりのある看護師の役割を知ることにより歯科衛生士の専門性を再確認する。

【授業の進め方】

教科書、講師が配布する資料やパワーポイントを使用し実施する。

【使用教本・教材】

教科書:看護学概論 看護追及へのアプローチ 医歯薬出版
その他の資料は講義中に紹介する。

【評価方法】

試験100%

【授業心得】

歯科衛生士にとっての看護は何かという疑問を持ちながら講義を受けてもらいたい。

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科Ⅱ（障がい者歯科）	実務経験
担 当 教 員 名	沖津 正尚 歯科医師歴 31年	
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	12時間（6回）

【授業の目的・到達目標】

高齢者の特徴を理解してもらい歯科診療での診療補助に役立つ知識を身につけると共に要介護者や有病者の知識を身に付け、今後も増加する訪問診療の対応にも参加できる歯科衛生士としての心構えを身につける

【授業の進め方】

- ①.パワーポイントによる講義
- ②.グルプワーク形式による高齢者の特性理解してもらう

【使用教本・教材】

講義の資料は講義が終わってから渡す
橋本式スケール、介護保険認定審査資料の見本

【評価方法】

グルーブワークの評価、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

なるべく寝ないで聴講してほしい

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科Ⅱ（高齢者歯科）	実務経験
担 当 教 員 名	宮腰 ゆき子 歯科衛生士歴 49年 ケアマネージャー歴20年	
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	4時間（2回）

【授業の目的・到達目標】

要介護高齢者に対する理解を深め、訪問歯科保健指導の実際と歯科衛生士の役割について習得する。

【授業の進め方】

教本とプリントを使用し授業を進める。
実際に患家で利用者が使用する、口腔清掃用具などを見てもらう。

【使用教本・教材】

高齢者歯科 第2版(医歯薬出版)
高齢者用口腔清掃用具
プリント

【評価方法】

【授業心得】

2回のみので授業なので気を抜かず取り組むこと

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科Ⅱ（高齢者歯科）	実務経験
担 当 教 員 名	山口 大樹 歯科医師歴 20年	
開 講 時 期	3年生 前期	
授業形態・単位数・時間	講義 1単位 16時間（8回）	

【授業の目的・到達目標】

目的:

我が国がむかえる超高齢化社会において、基礎疾患や認知症などを有する高齢者は、今後、益々増加すると考えられる。

また、そのような高齢者は摂食・嚥下障害（以下、嚥下障害と略す）を有していることも少なくなく、これからは、職種の垣根を越えた対応や医療間・介護職間の連携の充実が求められており、歯科衛生士の役割も今まで以上に増えてくると思われる。

講義では、嚥下障害とその対応の基本となる部分について理解させることを目的とする。

到達目標

- ①摂食・嚥下に関係する解剖、生理について説明できる。
- ②摂食・嚥下のメカニズムについて説明できる。
- ③摂食・嚥下機能の診査診断について説明できる。
- ④摂食・嚥下障害への食事の対応を説明できる。
- ⑤摂食・嚥下障害に対するチームアプローチについて説明できる。

【授業の進め方】

摂食・嚥下リハビリテーションの対応方法は多岐に渡るが、代表的なものについては実際の症例を提示する。

嚥下運動は体内の運動であり、通常は見ることはできないが、嚥下造影検査（VF検査）や嚥下内視鏡検査（VE検査）などの映像から、嚥下動態は観察可能できることから、VF・VE映像をパワーポイントを用いて解説する。

各種スクリーニング方法については、相互実習も交えて解説する。

【使用教本・教材】

講義) 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版
 「高齢者歯科 第2版」
 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版
 「講義で用いるパワーポイントスライド配付資料」

【評価方法】

定期試験結果および授業出席回数、受講態度等の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

私語は慎むこと

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科Ⅱ（障がい者歯科）	実務経験
担 当 教 員 名	増田 有希 歯科衛生士歴 39年	
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	10時間（5回）
<p>【授業の目的・到達目標】 歯科衛生士教育が3年制に移行され、障害者歯科に関しても卒後の臨床現場ですぐに役立つ様な専門性の高い知識が求められている。 この授業では、障害を持っているが故に伴う歯科治療のリスクに対して必要とされる基本的な考え方や正しい情報、また歯科衛生士としての心づかいや気配りなどを伝えていく事を目的とする。</p> <p>【授業の進め方】 座学、グループ別相互実習</p> <p>【使用教本・教材】 障害者歯科 第2版 教本</p> <p>【評価方法】 定期試験・レポートの点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】 基本的心得</p>		

授 業 科 目 名	高齢者歯科・障がい者歯科Ⅱ（障がい者歯科）	実務経験
担 当 教 員 名	林 大介	看護師歴 23年 社会福祉士歴12年
開 講 時 期	3年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	4時間（2回）
<p>【授業の目的・到達目標】 知的発達障がいについて理解を深める</p> <p>【授業の進め方】 資料を参照しながら授業を進める</p> <p>【使用教本・教材】 プリント</p> <p>【評価方法】 障がい者における全般的な知識や対応の仕方を理解・実践を総合して評価とする。</p> <p>【授業心得】 集中して授業にのぞんでいただきたい</p>		

授 業 科 目 名	口腔衛生学Ⅱ	実務経験
担 当 教 員 名	谷 宏	歯科医師歴 55年
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

目 的：

口腔衛生学の考え方を理解し、歯・口の健康に関わる知識と疾病・異常の予防方法を学んで個人の健康と地域の人々の健康を守ることを目的とする。

目 標：

- ・ 地域の人々の健康を守る歯科衛生士としての意識の向上を図るとともに、広い視野をもって健康や人々の生活に関心をもつ。
- ・ う蝕や歯周病など、歯科疾患の発生にも多くの環境要因が関わっていることを知り、疾病予防に必要な知識や予防法を学ぶ。
- ・ 日常生活習慣や疾病予防の視点から、地域の人々の口腔の健康を守るとともに、自分の歯の健康を守る能力を向上させる。
- ・ 地域住民のライフステージに応じた歯の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する。
- ・ 歯科保健指導、予防処置、地域保健活動に参加する上で必要な基礎知識を習得する。

【授業の進め方】

- ・ 教本とともに、板書を減らすために授業用のプリントを用いる。
- ・ 授業終了前に毎回小テストを行う(約10分)。どれだけ授業に集中できたか、自らの参考とする。
- ・ “今日の授業の感想”を毎回書く。授業内容に関連して心に感じたこと、気付いたこと、質問など。
- ・ 授業の始めに、前回の“授業の感想”と小テストの結果をもとに、前回の復習をする。

【使用教本・教材】

「保健生態学」(医歯薬出版)

【評価方法】

- | | | |
|-------------|-----|----------------------|
| ・ 平常点(小テスト) | 30% | } 総合した点数による絶対的評価とする。 |
| ・ 定期試験 | 70% | |

【授業心得】

- ・ 授業は聴いて心で感じ、そして理解することに努めること。
- ・ 毎日する勉強と試験のためにする勉強とは違う。試験勉強は試験の前にするもの。
- ・ 授業が大事。授業に集中することが大事。集中できるよう毎日の生活習慣に気を付ける。
- ・ 授業は耳だけで聞くものではない。全身で聴くもの。心も手も動かす。
- ・ 勉強は自分がするもの、今するもの。復習は重要。
- ・ テストも感想文も、漢字で書くべき語句は漢字で書く。間違えるのは今、覚えるのも今。

授 業 科 目 名	歯科麻酔学(救急蘇生含)	実務経験
担 当 教 員 名	中川 靖子	歯科医師歴 19年
開 講 時 期	3年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間 (8回)

【授業の目的・到達目標】

- 1 歯科治療における歯科麻酔の役割について理解する
- 2 全身状態の評価に必要な基本事項を理解する
- 3 生体応答のモニタリングについて理解する
- 4 局所麻酔法・全身麻酔法について理解する
- 5 精神鎮静法について理解する
- 6 歯科治療時の偶発症について理解する
- 7 一次救命処置について説明できる

【授業の進め方】

教科書＋スライド

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 「口腔外科・歯科麻酔」

【評価方法】

平常点および定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

実際に臨床で遭遇すると焦ってしまう場面にたいする知識や対応を学習します。
今後の自分を守るために必要な内容だという意識をもって授業に臨んでください。

授 業 科 目 名	数学Ⅱ		
担 当 教 員 名	兼岩 龍二	理学修士歴	40年（元商大教授）
開 講 時 期	3年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

科学的判断のツールとしての統計学の概要と、どのような場面でそれが用いられるかを理解する。

【授業の進め方】

概ね教科書第12章に沿って進行する。また演習を課す。

【使用教本・教材】

最新歯科衛生士教本 保健情報統計学

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

技術的な計算方法の習得のみならず、その背景にある考え方を理解するよう努めること。

授 業 科 目 名	表現方法論Ⅱ		
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴	24年
	笹山 美香	歯科衛生士歴	24年
	野村 渚	歯科衛生士歴	6年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴	46年
開 講 時 期	3年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

- ・歯科衛生の大切さを普及する。 幼児期の子供達に虫歯予防や歯の大切さを理解してもらう。
- ・2年次に作成した、脚本・媒体が適切かどうか評価し合い、訂正・修正する
- ・最終的なものが、幼児とその保護者の理解が得られるよう学習する

【授業の進め方】

学生同士で評価し、改善できるよう進める

【使用教本・教材】

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
その他、プリントを使用する。

【評価方法】

観客である幼児にわかりやすい表現・内容であるかを(歯・口腔の大切さが伝わるか)総合し評価とする。

【授業心得】

人にみせるという事を意識し注意事項、改善点には集中する。

授 業 科 目 名	教養講座Ⅱ(硬筆習字)
担 当 教 員 名	松山 道子 硬質書写技能1級歴 29年
開 講 時 期	3年生 前期
授業形態・単位数・時間	講義 10時間 (5回)

【授業の目的・到達目標】

内定前の試験と思い、自分のことを文字から知ってもらう為に、正確・丁寧に書き誠意を示す。

【授業の進め方】

正確に読みやすく記入する。

【使用教本・教材】

プリント

【評価方法】

ひらがな、カタカナ、数字、漢字などの字体、正確性を総評とした評価とする。

【授業心得】

心静かに、集中力をもつこと。

授 業 科 目 名	教養講座Ⅱ(マナー講座)
担 当 教 員 名	牧野 正恵
開 講 時 期	3年生 前期
授業形態・単位数・時間	講義 6時間 (3回)

【授業の目的・到達目標】

女性として 又 社会人としての基本的な接遇(マナー)を学び、実際に身につける事

【授業の進め方】

一方的な講義ではなく、動作や受け答え、又ロールプレイングを何度も実際に行って頂きます。動きの中で学びます。

【使用教本・教材】

特にありませんが、プリントを数枚用意致します。

【評価方法】

授業態度・出席状況・基本的な身のこなしなどの総合的評価とする。

【授業心得】

楽しく、前向きに、美しい女性をめざして。

授 業 科 目 名	総合学習 I (専門基礎分野)	実務経験
担 当 教 員 名	加藤友一、原田雅史、大聖康洋、谷宏、高村佳明、山本栄治、山口一郎、山岡義孝、熊澤龍一郎、渋谷繁男、兵藤博昭、坂口友朗、平井晋、細川宗靖、諸岡亮、迫健太郎、佐藤友則	
開 講 時 期	3 年 生 後 期	
授業形態・単位数・時間	講義・演習 2単位 32時間 (16回)	
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の医療への要望が多様化し、医療の質的向上が強く求められている。このような流れを背景として、歯科衛生士に対する社会の要望にも大きな変化が現れてきた。この教科においてはとくに医療と診療の意味を理解し、さらに歯科臨床について学び、歯科診療の流れを把握したうえで総括的な理解をする。 ・臨床で歯科衛生士が円滑な業務を遂行するために必要な知識をより深める。また歯科衛生士業務の多様化に伴う専門領域の拡大に対応できるように倫理、チーム医療、保健・医療・福祉との連携ができることを目標とする。 ・各教科の知識を再確認と整理を通して臨床でも応用できるよう理解を深める。 <p>【授業の進め方】</p> <p>講義形式で行う</p> <p>【使用教本・教材】</p> <p>各分野の最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) プリントなど</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席状況、授業態度、定期試験を総合し点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】</p> <p>臨床に向け重要な授業なので、聞き逃しのないよう集中すること</p>		

年間授業計画

科目名 総合学習Ⅰ

回数	履修主題	履修内容
1	解剖学・口腔解剖学①	<ul style="list-style-type: none"> 骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、脈管系、神経系、感覚器計の10器官系の機能を担うための特徴的な構造を整理・復習する
2	解剖学・口腔解剖学②	<ul style="list-style-type: none"> 頭頸部における骨格、骨格筋、脈管、神経、口腔などの内臓の5つの重要点を整理・復習する 頭頸部の構造的特徴の知識と定着を図る
3	解剖学・口腔解剖学③	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の基本的な構造と機能について理解する 人体発生の概要、胚葉の分化と器官形成の関係を理解する 口腔粘膜の構造と部位による差異について知識を整理する 歯と歯周組織の組織構造と発生過程を関連づけて理解する
4	歯牙解剖学	<ul style="list-style-type: none"> 歯の名称と表記法、歯の方向用語を整理する 歯髓腔・根管の名称と形態を整理する 永久歯と乳歯を比較し特徴を整理する 歯列・咬合と歯の異常を整理する
5	生理学	<ul style="list-style-type: none"> 循環器系、消化器系、排泄器系の機能的関連性を整理する 神経系と感覚器系の機能的関連性を整理・理解する 生命維持機構が神経性、液性に調整されていることを整理する 生命維持機構口腔機能が重要な役割を果たしていることを整理する
6	生化学	<ul style="list-style-type: none"> 生体の構成成分を理解し、その働きについて整理する 遺伝子の仕組みを理解し、その知識を整理する 結合組織とは何かを理解し、その知識を整理する 硬組織の歯と骨の成り立ちを理解し、役割を整理する 唾液の役割・プラークの成り立ちを理解し、知識を整理する
7	栄養指導	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の役割・基礎代謝量の知識を整理する 栄養所要量に関する知識を整理する 正しい食生活の実践、習慣化と食品との関係を理解する 正しい食生活の形成に口腔の諸機能が重要であることを学ぶ
8	病理学・口腔病理学	<ul style="list-style-type: none"> 病理学の基本的事項について概念を整理する 循環障害、代謝障害、増殖性病変、炎症、腫瘍、その他 う蝕、辺縁性歯周疾患を中心に歯および口腔の病理について整理する
9	微生物学・口腔微生物学①	<ul style="list-style-type: none"> 微生物の形態的特徴と生理学的性状の知識の整理をする 滅菌・消毒について知識の整理をする 化学療法の目的・原理・作用機序について知識の整理をする 微生物の病原因子について理解する
10	微生物学・口腔微生物学②	<ul style="list-style-type: none"> 免疫に関与する細胞の種類と機能について理解する 抗体の構造、種類、特徴について理解する アレルギーの種類とメカニズムについて理解する 口腔環境と口腔内常在菌の特徴について理解する

11	薬理学・歯科薬理学	<ul style="list-style-type: none"> ・総論で学んだ薬理用語を覚え、内容や意味を理解する ・主なやくぶつの名称を整理し、薬理作用について確認する ・薬事法における医薬品の分類を確認する ・麻薬および向神経薬について復習し、管理を学ぶ ・歯科臨床で用いられる医薬品、歯科領域で見られる薬の理解
12	口腔衛生学①	<ul style="list-style-type: none"> ・歯・口の健康と歯科疾患の予防について整理する ・口腔の不潔因子と歯口清掃について整理する ・歯磨剤の分類、効果について理解する ・口臭の原因についての理解し、分類と関連づける
13	口腔衛生学②	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕予防のための対策について整理する ・う蝕リスク検査の意義・内容・実際について知る ・臨床でのフッ化物応用の確実性と効果を知る ・歯周疾患予防として効果的なプラークコントロールを理解する
14	衛生学・公衆衛生学	<ul style="list-style-type: none"> ・予防の概念を整理する ・統計の種類、用語を整理する ・環境衛生について整理する ・食中毒の傾向と感染対策の実際を理解する ・学校・母子・産業・成人・高齢者の各保健の役割を整理する
15	衛生行政・社会福祉①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身を守るための歯科衛生士法と職責について理解する ・臨床において知る必要のある法律とその概要について知る ・歯科医療関連法を学ぶ ・我が国の衛生行政機構の概要を整理する
16	衛生行政・社会福祉②	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の施策と内容について確認する ・生活保護法の概要について確認する ・社会保険の種類と内容について確認する ・臨床での医療保険を知る

授業科目名	総合学習Ⅱ(専門分野)	実務経験
担当教員名	加藤友一、原田雅史、大聖康洋、谷宏、高村佳明、山本栄治、山口一郎、山岡義孝、熊澤龍一郎、渋谷繁男、兵藤博昭、坂口友朗、平井晋、細川宗靖、諸岡亮、迫健太郎、佐藤友則	
開講時期	3年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 32時間(16回)
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の医療への要望が多様化し、医療の質的向上が強く求められている。このような流れを背景として、歯科衛生士に対する社会の要望にも大きな変化が現れてきた。この教科においてはとくに医療と診療の意味を理解し、さらに歯科臨床について学び、歯科診療の流れを把握したうえで総括的な理解をする。 ・臨床で歯科衛生士が円滑な業務を遂行するために必要な知識をより深める。また歯科衛生士業務の多様化に伴う専門領域の拡大に対応できるように倫理、チーム医療、保健・医療・福祉との連携ができることを目標とする。 ・各教科の知識を再確認と整理を通して臨床でも応用できるよう理解を深める。 <p>【授業の進め方】</p> <p>講義形式で行う</p> <p>【使用教本・教材】</p> <p>各分野の最新歯科衛生士教本(医歯薬出版) プリントなど</p> <p>【評価方法】</p> <p>出席状況、授業態度、定期試験を総合し点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】</p> <p>臨床に向け重要な授業なので、聞き逃しのないよう集中すること</p>		

年間授業計画

科目名 総合学習Ⅱ

回数	履修主題	履修内容
1	歯科衛生士概論	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士の歴史について理解する ・歯科衛生士の就業状況について理解を深める ・医療安全管理について説明できる ・多職種との連携について理解する
2	歯科臨床概論	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療の特徴および特異性について説明できる ・患者の心理状態を、患者の側に立って考えることができる ・歯科疾患の概要を説明できる ・歯科診療の流れを説明できる
3	歯科放射線学	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科放射線学の基本を整理する ・臨床実習で学んだことの基本を整理する
4	歯科保存学①	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科疾患、窩洞の具備条件・分類、修復法の種類と内容、切削器具、歯髄保護法の知識を整理する ・臨床実習で学んだことを含めて総まとめを行い、保存修復学の知識を確かなものとする
5	歯科保存学②	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の患者の症例をみながら歯周疾患の治療の進め方を確認する
6	歯科保存学③	<ul style="list-style-type: none"> ・歯髄疾患と根尖性歯周疾患の分類を臨床例から理解する ・歯髄疾患の治療法を臨床例から理解する ・根尖性歯周炎の治療法を臨床例から理解する ・外科的歯内療法 of 偶発症について臨床例から理解する
7	歯科補綴学	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの知識と臨床実習で学んだ技術を統合する ・補綴治療全体の流れと技工操作との連携を理解する ・臨床面における診療補助および患者指導を行うための実践力を支える学理を学ぶ
8	口腔外科学	<ul style="list-style-type: none"> ・顎・口腔外科領域における各種疾患、および口腔に関連した全疾患の病態と治療法について基本的知識を説明できる ・口腔粘膜の病変について症状・原因・治療法を説明できる ・口腔領域の神経疾患について説明できる ・口腔外科診療の診療介助について説明できる
9	小児歯科学	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の身体および精神の成長発育、小児顎顔面および歯の発育・萌出・交換の時期を説明できる ・小児歯科における各処置の術式・使用器具・注意点を説明できる ・小児の歯科診療補助について説明できる ・小児の口腔衛生指導について説明できる
10	矯正歯科学	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科矯正に関わる成長・発達を説明できる ・正常咬合の条件を列挙できる ・不正咬合の名称・分類・原因について説明できる ・矯正歯科治療に用いる装置・器具と使用法を説明できる

11	高齢者・障がい者歯科①	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害者の種類・特徴と歯科的問題点を整理する ・器質的・機能的口腔ケアの定義と歯科衛生士の役割を説明できる ・摂食嚥下障害の概要 ・高齢者歯科の現状と介護保険における口腔機能の向上
12	高齢者・障がい者歯科②	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下機能の発達について説明できる ・摂食・嚥下障害の症状を列挙できる ・摂食・嚥下障害のスクリーニング検査を整理する ・口腔ケアについて説明できる ・介護保険の口腔機能向上について説明できる
13	歯科予防処置法	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置の各分野を分析し、知識の整理をする ・臨床現場で実践できる患者指導の方法を習得する
14	歯科保健指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・症例を用いて歯科衛生過程の基本を展開することができる ・情報収集・問題の明確化をし、それを基に適切な計画を立案し介入・評価ができるよう歯科衛生過程を整理する ・歯科衛生過程の6つの構成要素ごとに記録することができる
15	歯科診療補助法	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で習得した歯科診療補助の知識と臨床実習で学んだ歯科診療補助の知識との違いを整理する
16	日本歯科ボランティア機構の活動 (JAVDO)	<ul style="list-style-type: none"> ・JAVDOに参加して 本校の専任教員が参加したJAVDOの活動報告

授 業 科 目 名	総 合 学 習 Ⅲ	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 24年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 24年
	野村 渚	歯科衛生士歴 6年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 46年
開 講 時 期	3 年 生	後 期
授 業 形 態 ・ 単 位 数 ・ 時 間	講 義	1 単 位 16 時 間 (8 回)

【授業の目的・到達目標】

- ・社会保険の種類を知る
- ・臨床の医療保険の実際を学ぶ
 歯科診療報酬点数の理解
- ・介護保険と臨床の関係について理解する

【授業の進め方】

- ・講義形式で行う

【使用教本・教材】

- ・医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律・制度」第2版
- ・各種プリント

【評価方法】

- ・出席状況、授業態度、定期試験を総合し点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・歯科衛生士になり臨床で就業するときのために必要となる知識なので積極的に授業参加する

|

正

身

る

る

